日本海新聞
2012年（平成24年）6月17日 日曜日

1487人伯耆路に列

全国各地、韓国からも参加

12 SUN-IN 未来ウオーク

「第12回SUN－IN未来ウオーク」（NPO法人未来、新日本海新聞社など主催）が16日、鳥取県倉吉市駄経寺町の倉吉パークスクエアを主会場に2日間の日程で開幕した。初日は日本各地と韓国から1487人が参加。時折降る雨を物ともせず、自然と歴史あふれる初夏の伯耆路を元気よく歩いた。

（25面に関連記事）

同ウオークは、県中部1市4町の風光明媚な景観や名所を巡る8コースと、親子を対象とした3キロの保育コースを設定。今回から日本で最も歴史あるウオーキングリーグ「日本マーチングリーグ」に加盟し、これまで以上に全国から多くのウオーカーが参加する大会となった。

初日は湯梨浜町の東郷池や今滝を巡る40キロコースや、緑あふれる大平山を越える20キロコース、倉吉市の伝統的なまち並みを散策する10キロコースなどが行われた。

2日目は倉吉市の旧国鉄線跡や北栄町のコナン通りなどを舞台に行われる。

「長蛇の列」をつくり、ゴールを目指して歩く参加者たち＝16日、鳥取県倉吉市の小鴨川河川敷

日本海新聞
地域総合 2012年（平成24年）6月17日 日曜日

12 SUN-IN 未来ウオーク

風の薫り感じながら

自然満喫 さわやかに

倉吉市駄経寺町の倉吉パークスクエアを発着点に16日に開幕した「第12回SUN－IN未来ウオーク」では、全国各地から参加したウオーカーたちが、じめっとした梅雨空に負けず倉吉市と湯梨浜町を巡る5～40キロのコースを元気よく歩き、さわやかな汗を流した。

40キロコースの出発式で、がら沸き、存分に楽しんでください」とあいさつし、石田耕太郎倉吉市長は「風の薫りを感じながら歩き、青春に戻ったような参加者を歓迎。最短コースはベテランウオーカーの姿が多く見られ、風光明媚な湯梨浜町の東郷池のほとりや今滝などを目指して出発した。

韓国「温かな町へ」

韓国ドラマ「アテナ：戦争の女神」ロケ地にもなった伝統的建造物群保存地区の町並みもあって家族連れやグループが多く、会話を弾ませながら市街地をウオーキング。小鴨川河川敷では風を受けてすがすがしさも感じられ、

"緑のトンネル"を気持よく歩くウオーカー＝16日、倉吉市の大平山

意見を交わすパネリスト＝16日、倉吉市駄経寺町の倉吉未来中心

さらなる魅力向上を

倉吉、JML加盟記念シンポ

「SUN－IN未来ウオーク」が日本マーチングリーグ（JML）に加盟したことを記念するシンポジウム「ウオーク」が日本マーチングリーグ（JML）に加盟したことを記念し、行政関係者主催が16日、倉吉市駄経寺町の倉吉未来中心で開かれ、成長を遂げる未来ウオークの魅力向上などについて意見を交わした。

日本ウオーキング協会の多久剛会長や鳥取県の広瀬誠経営管理局長、県中部医師会の松田隆嗣会長らら人がパネリストを務めた。日本のウオーキング運動の歩みや、ウオーキング立県を目指す県の取り組み、子どもの体力作りなどについてなどを紹介した後、未来ウオークの今後について意見を交わした。

多久剛会長は、未来ウオークが日本海側で初めてのJMLの大会となるため「日本海」を念頭に出し、その先にある大陸からも注目される大会に」と、立地を生かして対岸諸国も視野に入れた展開を要望。広瀬経営管理局長は「歩くことで来た方が見えてくる」と地域づくりにウオーキングを生かすことを提案した。

楽しみながらそれぞれのペースでゴールした。

広島県廿日市市から夫婦そろって参加した佐伯敏さん（63）と成子さん（62）は「小鴨橋から大山が眺望できなかったのが残念だったが、町並みに歴史を感じ、緑もさわやかで気持ちよかった。毎年、いろんな発見がある」と話し、6回目の参加となった倉吉市岡の門脇貴さん（71）は「一番打空を雨雲に出し、その先にある大陸からも注目される大会に」と、立地を生かして対岸諸国も視野に入れた展開を要望。広瀬経営管理局長は「歩くことで来た方が見えてくる」と地域づくりにウオーキングを生かすことを提案した。